

平成25年6月26日

佐世保市長
朝長則男様

ふるさと自然の会
会長 川内野善治

要 望 書

宇久島では風力発電機50基建設の計画とは別にメガソーラー(40万kw)の計画があり、必要面積は680ヘクタールとされています。地元での説明会では農振地域・中山間地域・国立公園地域には出来るだけ手をつけないとのことでしたが、680haの広さは遊休農地だけでは確保できないために、牧野や国立公園も建設予定地に加えられています。(図参照)

風力発電は低周波や騒音等で人の健康に影響を与え、牛にも悪影響を与えることが分かっています。また、バードストライクも大きな問題です。ところが、メガソーラーの場合は人体や牛への悪影響が無いために、宇久島では受け入れる人が多いように聞きます。

ところが、ソーラーパネルが地面を覆い尽くすことから、植生が大きく変わってしまい、海岸を含む島の生態系や風景を大きく変えてしまいます。宇久島のように広大な草原は佐世保市ではここにしかなく、これを失えば佐世保市の自然環境の表現をも変えてしまわねばならないほどです。再生可能エネルギー開発の御旗の元に何の環境配慮も行われず事業が進められることは、本末転倒です。

このようなことから、次の二項目を要望します。

- 1 自然地形に建設される大規模(30haを越える)メガソーラー建設には県条例に基づく環境影響評価の実施を義務付けること。
- 2 現に利用されていない農地(牧野を含む)以外への建設を認めないこと。

上記2項目を要望します。

要望根拠の詳細は下記のとおりです。

記

- (1) 草原(牧野)に生息する希少野生生物に多大な影響を与えること
牧野(草原)に生息する希少植物(一部掲載)。

種 名	国カテゴリ	県カテゴリ	市カテゴリ
カイジンドウ	VU	VU	EN
キセワタ	VU	VU	EN
ゲンカイミミナグサ	NT	NT	NT
ノヒメユリ	EN	NT	VU
ヒゴタイ	VU	VU	EN
ヒメツルアズキ	EN	NT	VU
フナバラソウ	VU	NT	VU
ホタルカヅラ		VU	EN

ムジナノカミソリ近似種			EN
-------------	--	--	----

牧野(草原)に生息する希少昆虫

種名	国カテゴリ	県カテゴリ	市カテゴリ
ウラギンスジヒョウモン	VU	EN	EN
クロツバメシジミ	NT	NT	NT
シルビアシジミ本土亜種	CR + EN	VU	CR
メスグロヒョウモン		NT	NT

草原性の昆虫類は草原に生育する特定の植物を食草としているために、食草の減少は昆虫の減少に直ちにつながる。兔に角多くの希少野生生物が生息し、佐世保市では宇久島にしか分布しない種もある。

佐世保市レッドリスト3013年度改正版では、宇久島の草原(牧野)は生物多様性が特に豊かな場所として、「保全することが望ましい地域」とされており、「これらの地域は貴重な自然環境を有するため、後世に継承できるよう、保全に努めていく必要があります。」とされている。

(2)一部湿地状の休耕地に生息する希少野生生物に多大な影響を与えること

湿地状の休耕地に生育する希少植物(一部掲載)。

種名	国カテゴリ	県カテゴリ	市カテゴリ
イヌタヌキモ	NT	VU	VU
ミズオオバコ	VU	NT	VU
アオカワモズク	NT	NT	VU
イチョウウキゴケ	NT	NT	EN

湿地状の休耕地に生息する希少昆虫

種名	国カテゴリ	県カテゴリ	市カテゴリ
オオミズスマシ	NT	VU	VU
キイトトンボ		NT	NT
ヤマトホソガムシ	NT		EN
コフキヒメイトトンボ		CR	CR
ベニイトトンボ	NT	NT	NT

湿地状の休耕地に生息する希少貝類

種名	国カテゴリ	県カテゴリ	市カテゴリ
ヒラマキミズマイマイ	DD	DD	NT
マルタニシ	NT	VU	NT
ヒラマキモドキ	NT	NT	NT
ウクシマミズゴマツボ	-	CR	CR

(3) 水源涵養力の低下に伴う河川水量の変化により多大な影響を受けること
 小河川に生息する希少種

種名	分類	国カテゴリー	県カテゴリー	市カテゴリー
ユゴイ	魚類		NT	NT
タカハヤ	魚類		LP	LP
メダカ	魚類	NT	NT	NT
ヒメヌマエビ	甲殻類		VU	NT
ヒラテテナガエビ	甲殻類		NT	VU
マツカサガイ	貝類			CR
アオカワモズク	植物	EN	NT	VU

島内の小河川には上記表の希少種が生息しているが、渇水期の水量の減少、逆に大雨時の水流の増加により大きな影響を受ける。

(4) 佐世保市・宇久町『まちづくり計画』(新市建設計画)掲げる将来像との不整合

当計画は、宇久島の自然に価値を見だし、それを活力へつなげることを趣旨としており、将来像を以下の通り掲げ、実現する目標年次を2015年(平成27年)度としているが、メガソーラー建設はその趣旨に沿わず、将来像の実現を著しく阻害するものであること。

以下、宇久町『まちづくり計画』(新市建設計画)より抜粋

『宇久町はエメラルドグリーン的大海と黄金色に輝く砂、芝生の大草原が雄大に広がる自然を有する、落ち着きと安らぎのある地域です。ここには、心身を癒し、明日への活力を養うことができる場があります。これからの新市におけるまちづくりにおいては、このような1市1町の異なる魅力を生かし、互いに連携し合うことで新たな魅力を生み出すことが期待されます。』

<新市の基本理念>

「多様な価値観を持つ人々の『協働』」「交流による新たな活力の『創造』」「都市と自然が持続できる環境の『共生』」

(5) 佐世保市景観計画

『佐世保市景観計画』との不整合

風力発電やメガソーラーの建設は、島の景観を著しく損なうものであり、「新市建設計画」「佐世保市景観計画」に反するものがある。

本市景観計画では、景観形成の目標を「観光交流の拡大により地域社会の活力を促す景観づくり」「市民・事業者・行政が協働して、本市の魅力を共有し、愛着を持ち、観光客等の来訪者にも誇れる景観形成を進めていきます。」とし、宇久島を以下のように位置づけている。

- ・丘陵地の緑と海の碧が鮮やかな宇久島
- ・市街地の背景となる島・海・緑の自然景観の保全・継承

<島エリアとしての景観形成の目標>

「海と島の緑が一体となった、緑豊かな島」

<景観形成方針>

島の玄関口となる港の顔づくり
牧草地など特徴的な田園景観の保全・継承
海、田園景観と調和する集落地景観の形成
島を回遊する道路の良好な沿道景観形成
城ヶ岳を中心とする豊かな自然景観の保全・継承

(6) 宇久島の将来を担う主力産業「畜産業」を圧迫すること

宇久島は市内最大の繁殖牛の飼養地で、現在1,400頭強の母牛を飼養しており、佐世保市農林水産業基本計画素案<改訂版>(平成23年1月)によると、活力ある農林業を展開する生産基盤の整備のために様々な施策が掲げられている。

佐世保市公式ホームページ・農水商工部 農業畜産課によれば、繁殖牛は宇久町を中心に、市内全域で約3,200頭が飼養されており、肥育牛を併せると、肉用牛飼養頭数で県内第4位である。「長崎和牛」「西海の牛」ブランド確立も期待され、畜産業のさらなる発展を目指している。

宇久町の畜産農家は、遊休農地を一反あたり年間3,000円程度の借地料で借上げ、規模を拡大している。ところが、太陽光発電会社が一反あたり6万円で借り上げることから、畜産農家との契約を打ち切る地権者が増え、畜産農家が規模を縮小せざるをえない状況が発生している。

(7) 地下水不足や一気に流れ込む表面水が漁業に与える影響が未知

680haもの土地にソーラーパネルを張ると、これまで広い範囲で地中にしみこみ地下水となっていた水が、一気に海へ流れ込む懸念がある。地元説明会では、「遊水池の設置が義務づけられているので問題ない」との説明があったが、雨量によっては海へ流れ込む水の量を調節することは難しいと思われる。

大雨の際の表面水の流れ込みが漁業へ与える影響や、地下浸透水の減少で飲料水としての地下水の減少も未知であり、地下浸透水が少なくなると河川への流出も減少するという二重の問題が予測される。

このようなことから、経過を観察し、必要に応じて対策を講じる準備が必要である。

太陽光発電に環境影響評価が適応されないのは、工場跡地などを建設地として想定し、自然地形上にこのような大規模な発電所を作ることは想定外だからと考えられる。

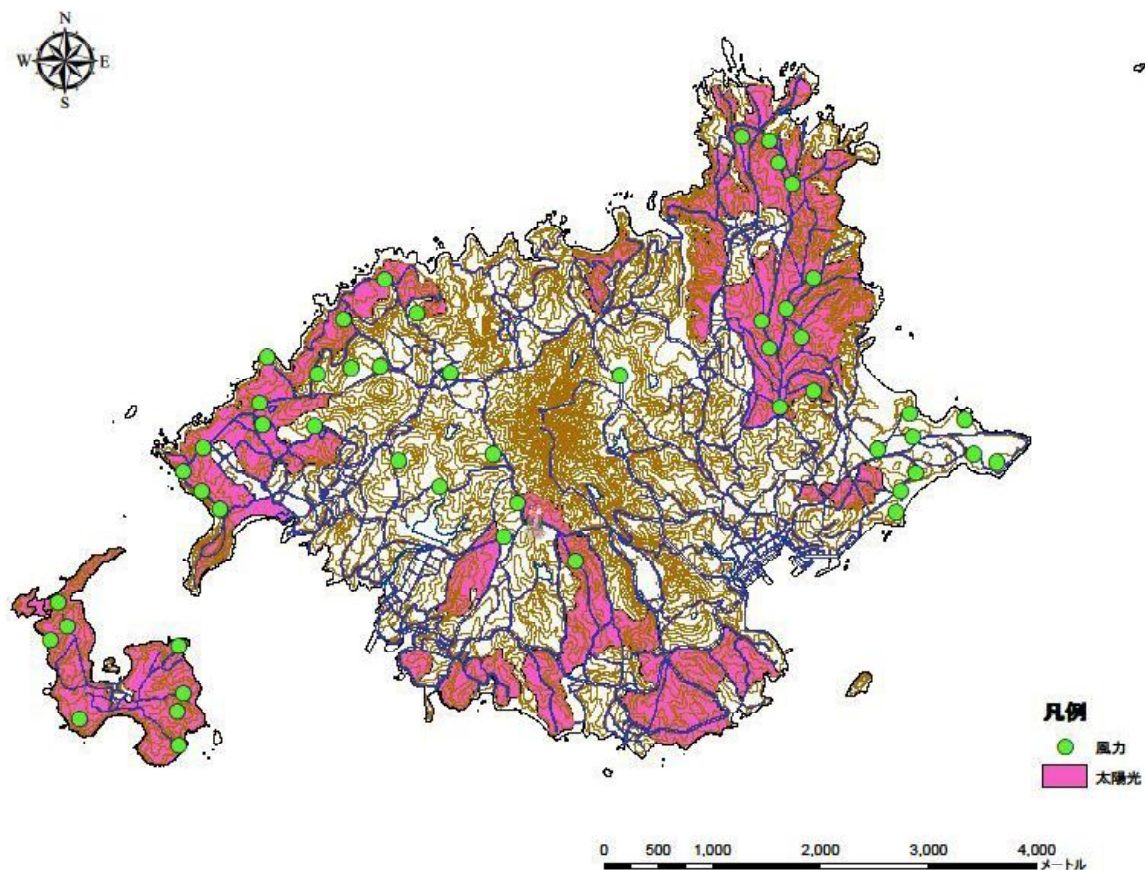
宇久島の環境を勘案すると、条例に基づく環境影響評価を実施しメガソーラーによる環境への影響を調べる必要があると考える。

以上

7月10日までに、文書にて当会事務局あてに市の考え方を説明して頂きますようお願い致します。

なお、要望書及び回答は当会のホームページに掲載し公開することを予めお断りいたします。

図(風力発電施設建設及びメガソーラー建設予定地図)



* 本地図は、国土地理院発行の基盤地図情報を用い、当会の情報を基に日本自然保護協会が作成したものです。また、メガソーラー建設予定地については記憶を頼りに作図していますので、若干の誤りがあることをご承知下さい。

ふるさと自然の会
会長 川内野善治
〒859 - 6405 佐世保市世知原町開作427
TEL/FAX 0956-78-2865
<http://www5d.biglobe.ne.jp/~furusato/>